

2. 「CIF の伸展」を目指す動き

これまで CIF は国際社会福祉学会、ソーシャルワーカー協会等との連携を試みてきましたが、現在、さらに種々の助成団体との連携が模索されています。今回 CIF キプロスが、地元のフルブライト委員会の助成で水利管理技師



CIF 各国代表者会議（ウイーン・2008年10月）

を UCLA に研修派遣し、これを CIPUSA が仲介して UCLA の斡旋とビザ発給を手伝いました。現在（今後）各国では研修者派遣に対して、それぞれの国のフルブライト委員会に打診するよう要請を受けています。CIF ジャパンでも清水基金はじめその他の助成団体による、研修者への助成を求めたいと考えます。

この他、CIF 参加者が存在するにも拘わらず、CIF 支部未設立の国が多くあります。現状、そのうちのいくつかには Contact Person（以下 CP）が置かれています。アジア地域では、韓国、中国、台湾、フィリピン、タイ、シンガポール、といずれの国にも支部は無く CP がいるだけです。

とにかくアジアの支部はインド、トルコ、キルギス共和国と日本の4ヶ国のみですので、アジアに限れば、支部不在の国の CP に対する、CIF ジャパンの働きかけ、可能な支援が求められています。これは現状いささか手に余る作業ですが、コミュニケーションを少しずつ進めていく他はないと考えています。他に大学生に単位認定つきで EPs 参加の方針が進められています。これは CIPUSA、CIF いずれも研修者の参加資格枠を大学生にまで広げるものです。

ウイーンの街をそぞろ歩き

初めて BD 会議に臨み、発言を求められた機会に、これまでの無沙汰に対して簡潔に弁明を行い、CIF ジャパンの現状と活動状況を説明しました。

BD 会議開催には CIF オーストリアが、ホテルの会議室、廉価の宿泊室を確保され、晚餐や息抜きに、ウイーン市庁舎や会長自宅に出席者を全員招待され、最終日にはウイーンの街をみんなでそぞろ歩いてご案内を頂きました。10月のウイーンはやや寒く、あたりは晩秋の気配でした。BD 会議には今後 CIF ジャパンから役員はじめ、できれば有志の会員の出席を頂ければ

有り難いと思います。

おわりに、BD 会議の詳細をお知りになりたい方には数ページに及ぶ英文議事録がありますので、メールでご連絡頂ければ折り返しお送りさせていただきます。（メールアドレスは cifjapan08@gmail.com ）